



長万部写真道場 再考

—北海道における写真記録のこれから—

フォーラム

2月25日(日) 10:00-14:15 文化ホール 入場無料

基調講演1「郷土に写真を残す～青森県立美術館での実践を通じて」／高橋しげみ(青森県立美術館学芸主幹)
基調講演2「『掛川源一郎写真集 大地に生きる-北海道の沖繩村-』を読む」／倉石信乃(明治大学教授)
プレゼンテーション「長万部写真道場 調査報告」／中村絵美(長万部写真道場研究所主宰)
パネルディスカッション

写真展

2月11日(日・祝)～25日(日) 10:00-18:00 町民文化ギャラリー 入場無料

*休館日2月12日(月)、19日(月) *最終日2月25日(日)は15時まで

長万部町学習文化センター 北海道山越郡長万部町字長万部411番地216

関連イベント「長万部写真道場」撮影地見学ツアー

2月24日(土) 15:00～ 長万部町学習文化センター ロビー集合 参加費500円 要申し込み

[主催] 長万部写真道場研究所、北海道開拓写真研究協議会

[後援] 長万部町、長万部町教育委員会

[協力] あをば荘

[助成] 公益財団法人北海道地域活動振興協会

[お問合せ] 北海道開拓写真研究協議会

電話：080-5595-7038(中村/長万部事務局)、080-4007-7047(大友/札幌事務局)

メール：info@occ-lab.org

長万部写真道場研究所 <http://occ-lab.org> 北海道開拓写真研究協議会 <http://hsp-web.jp>



戦後復興期にカメラが一般に普及し始めたこともあり、北海道では多くの写真家・写真愛好家が、戦後入植した移民や先住民族アイヌの日常の暮らしなどを撮影しました。当時、北海道各地で、写真家達が土地の暮らしと風土を写真によって記録しようと試みていました。彼らの残した写真は、郷土文化の形成を考える上で近代日本の発展と北海道の関係を考える上でも貴重でありながら、未だ十分な調査や価値付けが行われておらず、写真家達の死後、散逸・消失の危機に晒されています。

「長万部写真道場」は、そのような時代の流れの中で、彼らにとって最も身近だった長万部で生きる人々の多様な生活の姿を捉えた地域の写真家グループです。今回の「長万部写真道場」の残した写真群を、2015年からの調査以降初めて一般公開するとともに、写真研究者らを招いてのフォーラムディスカッションを開催します。これらの写真を撮影地・長万部でご紹介するとともに、地域社会や写真史におけるその意義、そして郷土の文化資源としての活用の可能性を探ります。

長万部 写真道場 とは

戦後復興期に活動した長万部町在住者ら約10名による写真愛好家集団。リアリズム写真運動の影響を受けながら、開拓農民や漁民、アイヌ民族などを撮影しており、町史や地方紹介書籍への写真提供なども行っていた。また伊達出身の写真家・掛川源一郎と親交があり、写真集『大地に生きる—北海道の沖繩村』で紹介された沖繩出身入植者やアイヌ集落の村おさを掛川氏に紹介したことがわかっている。共著に『長万部熱き鼓動—長万部開基120年・町政施行50年記念写真集』がある。

中心メンバーの故・澤博氏のアトリエに大量の写真が保管されているのが見つかり、「長万部写真道場研究所」が2015年から調査を行っている。

フォーラム

2月25日(日) 10:00-14:15 文化ホール

長万部の人々にとって身近な場面や風景を捉えた「長万部写真道場」の写真は、北海道の歴史や日本写真史においてどのような意味や価値を持っているのでしょうか。郷土写真の研究者や写真評論家による講演や意見交換によって紐解きながら、地域の文化資源としての可能性について考えます。

第1部

10:00-11:45

基調講演1「郷土に残す～青森県立美術館での実践を通じて」

高橋しげみ(青森県立美術館美術企画課学芸主幹)

青森県大町出身。青森県立美術館の学芸員として戦後美術、写真などを担当。2009年青森市出身の写真家・小島一郎の回顧展「小島一郎—北を撮る—」を企画。カタログとなった『小島一郎写真集成』(インスクリプト)で第21回「写真の会賞」受賞。2013年東日本大震災の被災地に残る歴史と記憶をテーマにした「種差 —よみがえれ 浜の記憶」展を企画。同展カタログ掲載論文で美術館連絡協議会カタログ優秀論文賞受賞。2016年青森市出身の報道写真家でデュリッサー賞を受賞した澤田教一の回顧展「生誕80周年 澤田教一:故郷と戦場」を企画。2017年日本写真協会学芸賞受賞。



基調講演2「『掛川源一郎写真集 大地に生きる—北海道の沖繩村—』を読む」

倉石信乃(明治大学理工学研究科総合芸術系教授)

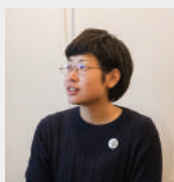
1963年生まれ。専門は近現代美術史・写真史。1988-2007年、横浜美術館学芸員としてマン・レイ展、ロバート・フランク展、中平卓馬展、李禹煥展などを担当。写真批評の著作により、1998年重森弘淹写真評論賞、2011年日本写真協会賞学芸賞受賞。著書に『反写真論』(1999年)、『スナップショット—写真の輝き』(2010年)など。『沖繩写真家シリーズ「琉球列像」』(未來社、全9巻)を仲里効と監修。



プレゼンテーション「長万部写真道場 調査報告」

中村絵美(長万部写真道場研究所主宰)

北海道長万部町出身。2015年に長万部町のアマチュア写真家集団「長万部写真道場」主宰者の一人であった、故・澤博氏(長万部食堂店主)の駅前アトリエに残されていた大量の写真を発見。その保管、整理、調査研究、発表を行うために「長万部写真道場研究所」を立ち上げ活動している。



休憩 11:45-12:45

第2部

12:45-14:15

パネルディスカッション「北海道における写真記録のこれから」

倉石信乃・高橋しげみ・中村絵美

●関連イベント

要申し込み

「長万部写真道場」 撮影地見学ツアー

2月24日(土)15:00-(1時間半程度)

長万部町学習文化センター ロビー集合

長万部写真道場が撮影した場所を実際に訪れます。現在の町の風景と写真のつながりなどについて解説を交えながら町を歩きます。

[参加費] 500円(キャンセル料無料)

[案内人] 中村絵美(長万部写真道場研究所)

[申し込み] 2月23日(金)までに氏名・電話番号・参加人数を、事務局へ電話またはメールにてご連絡ください。

*当日は屋外を歩きます。防寒・動きやすい服装でお越しください。

*当日の天候などにより、やむを得ず中止することがあります。その場合は申込みいただいた電話番号へご連絡差上げます。



長万部町学習文化センター

北海道山越郡長万部町字長万部411番地216

MAPコード: 521 045 578*48

長万部駅より徒歩10分/駐車場あり

電話: 01377-2-5757

[お問合せ/撮影地見学ツアー申し込み]

北海道開拓写真研究協議会

電話:

080-5595-7038(中村/長万部事務局)

080-4007-7047(大友/札幌事務局)

メール: info@occ-lab.org

http://occ-lab.org (長万部写真道場研究所)

http://hsp-web.jp.n (北海道開拓写真研究協議会)

写真展

2月11日(日・祝)~25日(日) 10:00-18:00 町民文化ギャラリー

*休館日 2月12日(月)、19日(月) *最終日2月25日(日)は15時まで

戦後復興期に精力的に活動した長万部町の写真愛好家集団「長万部写真道場」の写真群を、調査後初めて一般公開します。

彼らは当時のリアリズム写真運動の影響を受けながら、長万部町をフィールドに、町中で働く人々や開拓農家、漁師といった、町を支える人々の多様な生活の姿を写真に収めていました。また、澤博氏、河東篤氏を中心としたメンバーたちは、全国誌の写真コンテストに応募したり、戦後の北海道写真家の草分けである掛川源一郎氏をはじめとする道内の写真家たちと積極的に交流したりしながら、特色ある長万部の暮らしを地元から発信し続けました。彼らが撮影した写真から、昭和の長万部の暮らしを紹介します。

